

2024年 2月10日

第7回 J-VILLAGE CUP U-18 女子 参加報告書

オホーツク地区 鈴木陽和

1, はじめに

この度、福島県で行われた第7回 J-VILLAGE CUP U-18 女子に派遣していただきましたので、報告させていただきます。



2, 研修会概要

参加大会：第7回 J-VILLAGE CUP U-18 女子

研修日時：2024年2月7日（金）～2024年2月9日（日）

会場：福島県ナショナルトレーニングセンター J ヴィレッジ

参加者：各地域派遣審判員：計8名

講師：鮎貝志保氏、浅井昭子氏、手代木直美氏、真殿三加氏

3, 事前研修会

研修日時：2024年1月27日

研修内容：大会要項の確認・大会参加に向けて・主審の業務

研修会場：ZOOM

4, 担当試合

2024年2月7日	尚志高等学校 vs 聖和学園高等学校	前半 A1 後半主審
2024年2月7日	十文字高等学校 vs 常盤木学園高等学校	前半 A1 後半主審
2024年2月8日	常盤木学園高等学校 vs 帝京長岡高等学校	前半 A1 後半主審

5, 担当試合振り返り

① 尚志高等学校 vs 聖和学園高等学校 前半 A1 後半主審担当

INS：手代木直美氏

【自己振り返り】

常にプレーと近いところで見守る事を意識した。真ん中でスペースを塞いでしまったり、巻き込まれることや迷子になることが多かった。11人制の主審に慣れていないため、副審を意識してポジショニングすることやアイコンタクトなどのコミュニケーションが、うまくできなかった。

【INS：手代木直美氏コメント】

・幅を広く使っている

→次はペナルティーエリアに入り込むタイミングを意識するといい。

・選手のプレーエリアを意識しすぎている

→選手が使ったようなポジションを空けるために、後ろに下がってから走り出すから、スタートから走る距離が長くなっている。受け手を第1に意識するといい。特に前線の選手をよく見る。

② 十文字高等学校 vs 常盤木学園高等学校 前半 A1 後半主審担当

INS：真殿三加氏

【自己振り返り】

かなり当たりが激しい試合で、ファウルの見極めに苦戦した。そのため通常よりも近くに寄って、見えやすくなるよう角度なども考え動いた。前半に A1 をしている際、きわどいオフサイドが何個もあったため、副審とのアイコンタクトを意識した。

【INS：真殿三加氏コメント】

・頭の負傷の対応

→声をかけて選手から大丈夫と言われても、様子がおかしければ役員を呼んだりするなど、再開を急がずに時間をかけても対応する。

・壁の作り方

→ほぼペナルティーエリアのライン上に壁を作るとき、次のプレーでハンドのジャッジが関わってくるから、歩測より遠くてもライン上には作らない。

③ 常盤木学園高等学校 vs 帝京長岡高等学校 前半 A1 後半主審担当

INS：手代木直美氏

【自己振り返り】

攻守の交代がとても激しい試合で、前日にコメントでもらった幅を使う、受け手を意識して下がらない、近くで見るの3つを強く意識した。前日の二試合に比べて、走れていないと感じた。副審と細かくアイコンタクトをとり、コミュニケーションを意識した。

【INS：手代木直美氏コメント】

・無駄がなくスムーズな動き

→走れていないのではなく、後ろに下がるなどの無駄な動きが省けたから、スプリントの数などが減り、走った量が少なく感じるだけ。

・脳震盪の対応

→即座に止めるべき。止めた後の対応や再開は良いので、止めるまでをもっと早くする。

6. 終わりに

この度は、第7回 J-VILLAGE CUP U-18 女子に派遣していただき、ありがとうございました。各地域の女性審判員、インストラクターの方々と交流させていただき、色々なお話を聞くことができ、とても貴重な機会でした。研修や試合を通して、様々な学びがあり、自分の長所や改善点を見つめなおすことができました。この研修会で、学んだことをこれから生かしていくために、一層トレーニングを頑張ろうと思います。

